

な、さう桂馬が五つも六つも向ふへ飛んでは」若「予の駒は名馬である、此の位駆ける駒でない戰場の間に合ふと思ふか」萱「香車をそう横斜に行つては困ります」若「予の香車は東山實藏院流の槍だ此の槍先が受けられるなら受けて見よ」こんな無茶な將棋があつたもんぢやない、萱召さん向方へ逆馬に這入つて好い加減に扱ふて居ります、何ぼ無茶をなされても構はん段の開らく將棋で御座りますから萱「サア若君何方へお越しになりまする、それは飛車道で御座居ませんか……其所は桂馬が利いて居ります」若「色々な所に駒が居る、邪魔になるから取除け」萱「そないな事出来やしません、マア何方へお出でになります」若「そう申はば予の王の行所が無いわい」萱「夫れでは若君のお負けで御座居ませう」若「黙れ主が家來に敗けると云ふ法やあらん」萱「では何方へお出でになります」若「予の王は右大將頼朝公の末弟にいたし、幼名を牛若丸と申し、成長の後源義經となつて八艘飛をやつた、その八艘飛を以て逃げるわい」萱「そんな亂暴な事をされては不可ません……若君王を何所へおやりになりました」王さんを盤の下へ放り込んで仕舞ひなすつて、若「此方に片附けてある早く參れ」萱「私も將棋を度々差しますが、敵の王様無しの將棋は差した事はございません、そんなぢやらくした將棋は頼寄なふて行けません、攻められるばかりで向ふを攻める事が出来ん」若「何うちや萱沼其の方負けぢやろう」萱「是れでは誰かて敗けます、攻める事の出来ん攻められる一方の將棋で……」若「コリヤ頭を此方へ出せニツ打つのぢや」と鐵扇でボカ／＼若「コレヨ、次に控へし者參れ」○「ハツ……」

萱「オイ田中氏、亂暴な將棋だぞこりや誰が行つても叶はん」毎日常來一同が皆殿様に頭打たれる、七日と云ふものは打たれ通しました、八日目の朝一同詰所へ集つて ○「何れも御出仕大儀でござる」△「盤將お手合せは如何で御座る」○「色々な事が始まりましたな、拙者はモウ此の將棋が三日も續くと云ふやうな事なら殿様へ食祿をお返し申さうと考へて居ります、さうして城下外れで焼芋屋でもする方が餘程氣樂でございます」△「拙者も頭が病めるので、頭を揉ますやら冷やすやら大騒動で御座居ます」○「フム餘程苦しい、芋でもしやうと考へるが、芋は此の頃十貫目何の位で卸しますかな」色々な事を云つて居ります、丁度二十日程前より病氣の爲め登城をお休みで御座居ました殿の御意見番、お年の頃は六十餘り、頭は宜う流行る汁屋のお玉杓子のやうな格好をして居ります、石部金吉郎といふ固い／＼石部金吉金兜と云つて恐ろしい固い人で、前日から全快届を出して御座居ました、今日は久し振りの登城で御座居まして ○「ヤア、是れは／＼石部氏には御病氣全快の由お目出度う御座居ます」金「ア、病中は毎日御見舞下され有難う存する、各々方お見申す皆頭が腫れて御座居るが如何召された」○「ハツ……」金「フム、コリヤ石部が誤つた、如何に泰平の御代なればとて、治に居て亂を忘すれぬ爲めに毎日劍道の稽古で御座るな、素面素小手でお行りあそばしたと見える、これは木太刀の跡でござるか、それは／＼お勇ましい事でござるわい」○「是は面目次第も御座居ません、左様な氣の利い疵ではござりませぬ」金「夫れでは如何召されたのぢや」○「若君に毎日鐵扇にて二つづ